

# わたしの好きな よりの

No.135

今回、皆さんに紹介する写真は、『第47回2007寄居町観光写真コンクール』において、埼玉県知事賞を受賞した作品です。

■撮影者：大平栄さん（秋山）

■タイトル：いいとこ寄居町

寄居玉淀水天宮祭・花火大会の花火と鉢形城跡三の曲輪に復元された四脚門が見事に写し出された作品です。

寄居玉淀水天宮祭・花火大会は、水天宮祭の付け祭りとして、昭和6年に『第1回玉淀水天宮祭・花火大会』として始まりました。

ぼんぼり、提灯で美しく飾りたてられた舟山車、名勝玉淀をバックに打ち上げられる花火、そして、川面に映える万灯の競演は、まさに『関東一の水祭り』といえるでしょう。

今年の花火大会は、8月4日(土)に行われ、約五千発の大輪が夏の夜空を彩ります。皆さんぜひお出かけください。



<いいとこ寄居町>

## わが町の



トンボの達人

No.4



新井 裕さん（末野2）

達人と聞くと、何かものすごい人！といった印象を受ける。ところが私は単にトンボが好きだけで、とても達人という名に値するとは思えない。とはいえ、一瞬上空をよぎったトンボを見て、即座にその種類や性別、年寄りか若いのかを見分けるこ

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくちや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

とができる。一般の人から見れば、そんなことでも達人技と写るのかもしれない。

日本人はトンボ好きの民族として知られている。世界中を見渡しても、トンボに好感を持つ国は、日本、韓国、台湾くらいのものらしい。とはいえ、私のようにトンボにのめり込んでいる日本人はかなりの少数派で、全国でも300人ほどに過ぎない。達人というより、変人・奇人と言うべきかもしれない。

トンボのどこに惹かれるのか、と問われても簡単に言い尽くせない。それほど魅力的なのだ。その魅力を知ってもらうのに、一番手っ取り早い方法は、捕まえたり写真に撮ることだ。大の大人が捕虫網を持ってトンボを追いかけるのは恥ずかしいと思うので、私がお勧めするのは写真だ。最近はコンパクトなデジカメでもマクロ撮影ができる。トンボに気づかれないように息を止めてにじり

寄り、シャッターを切った瞬間の快感が何ともいえない。夕日を背にシルエットとなったトンボ、宝石のように輝く複眼のアップ、卵を産み落とす瞬間など、題材はいくらでもある。うれしいことに町内至るところにシャッターチャンスがある。ぜひ一度トンボの撮影にチャレンジを！トンボの世界にはまるに違いない。

